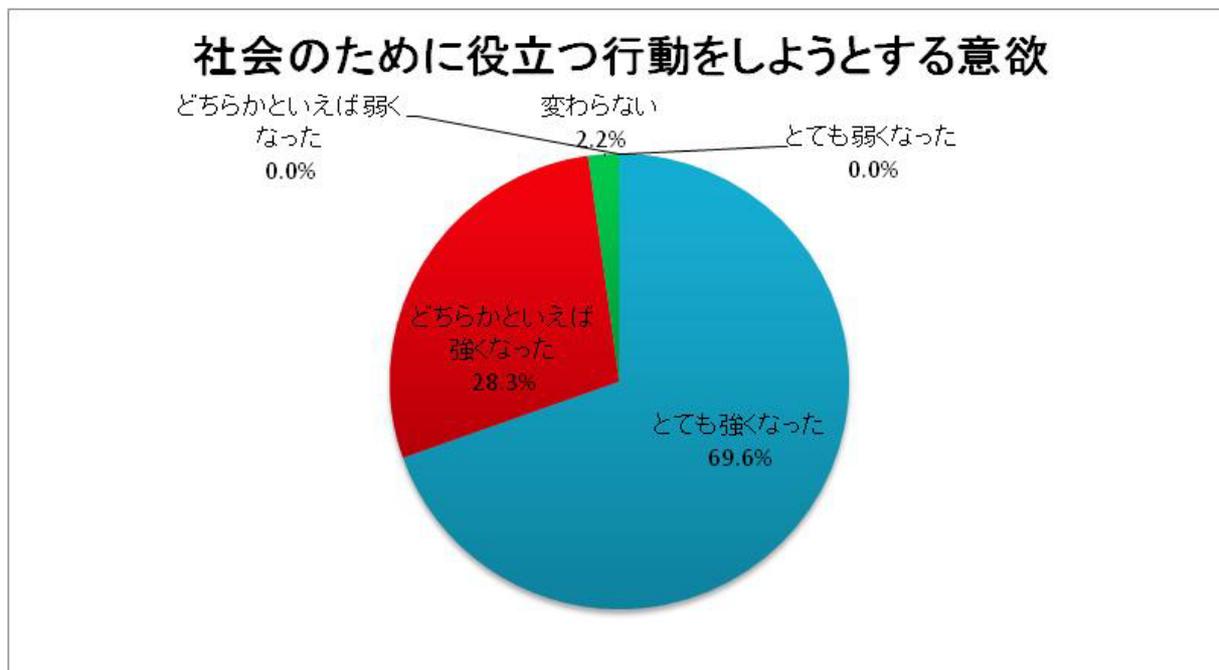


第2章 内閣府事業での経験がどのように役立ったかについて

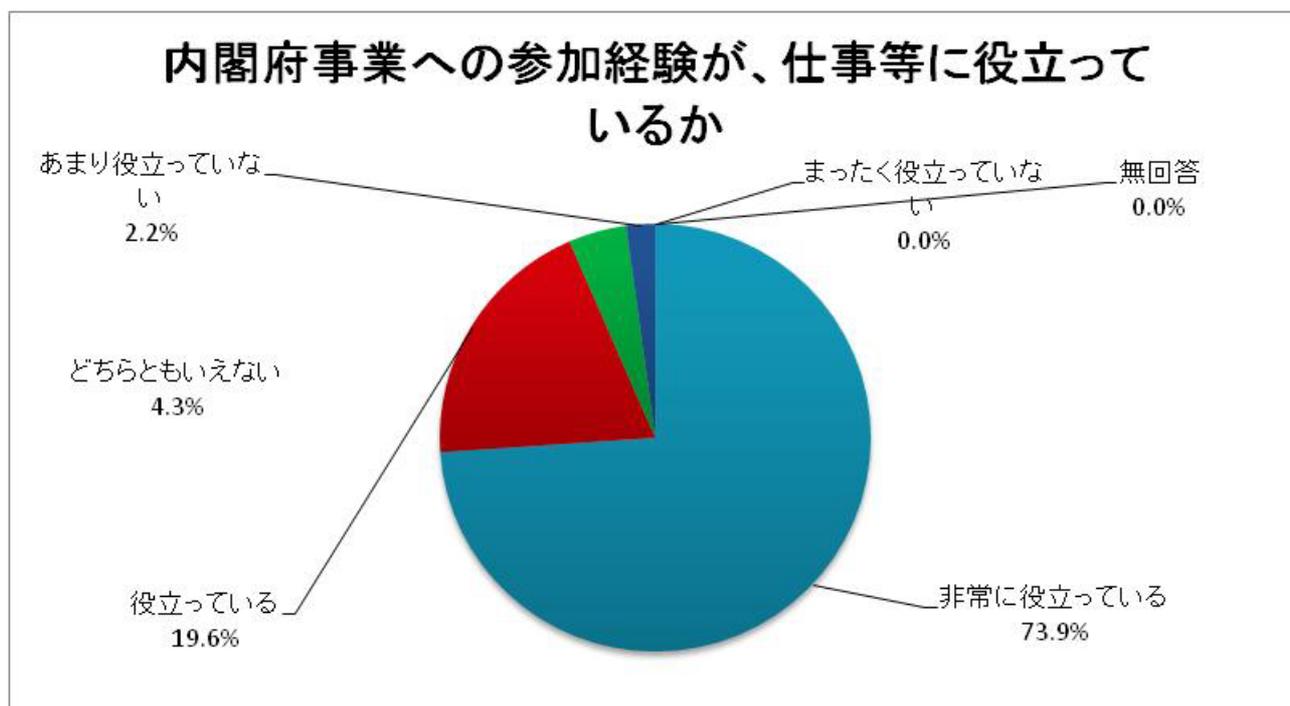
質問2: あなたは、事業への参加後、参加前に比べ、社会のために役立つ行動をしようとする意欲が強くなりましたか。

「とても強くなった」「どちらかといえば強くなった」とする割合が約 97.9%を占めており、事業への参加が社会貢献への意欲を高めたことがわかる。



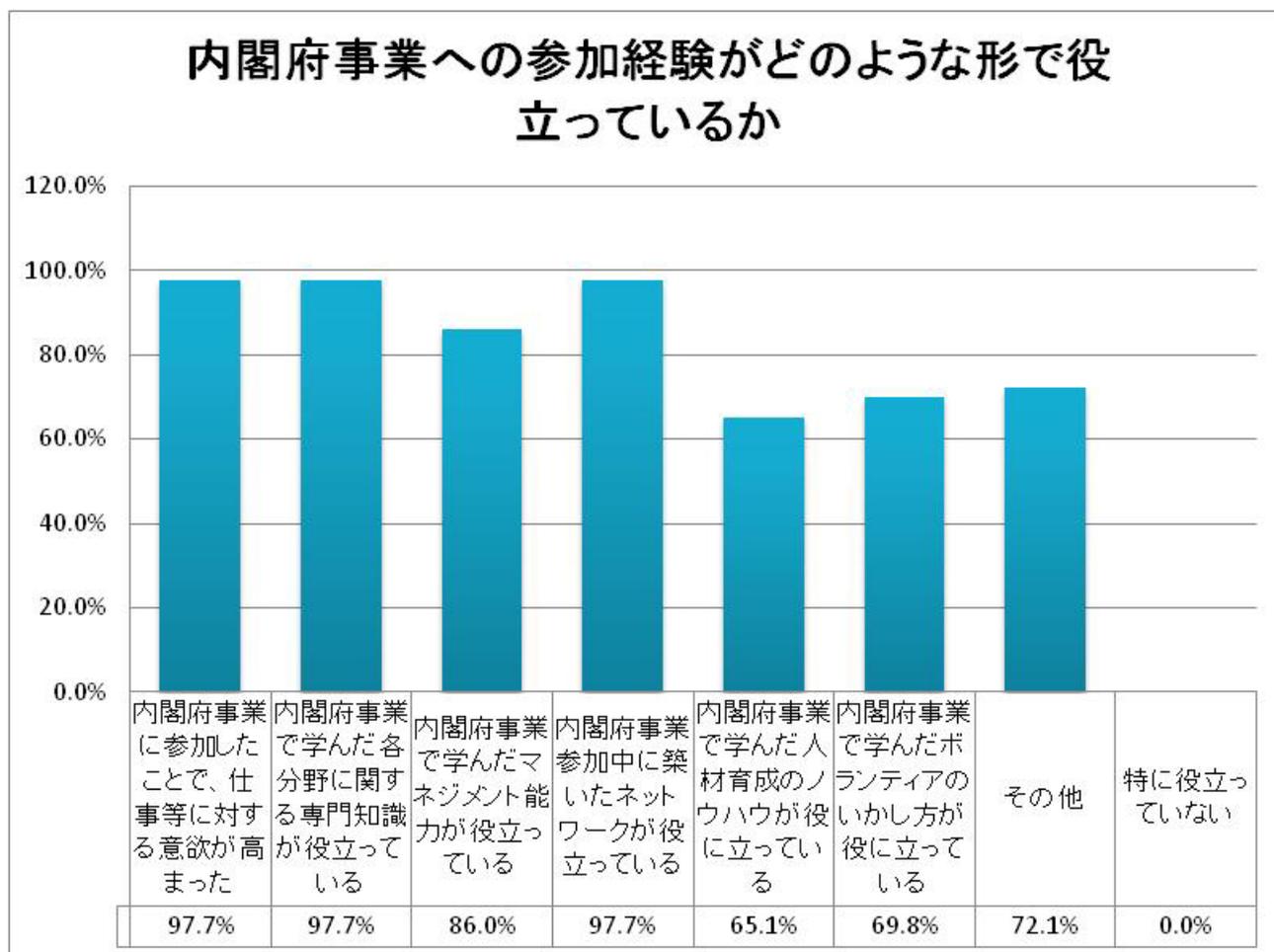
質問3: 内閣府事業への参加経験は、今の仕事等に役立っていると思いますか

内閣府事業への参加経験が、今の仕事などに役立っているとした者は 93.5%であり、多くの参加青年が辞意行の経験を仕事などに役立っている。



質問4：質問3でア又はイを選んだ方にお聞きます。内閣府事業への参加経験は、どのような形で役立っていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

「意欲」「知識・能力」「ネットワーク」が、9割を超える高い割合で事業参加経験が、仕事等に役立ったことがわかる。これらに比べると少ないが、それでも6割以上の参加青年が、「人材育成のノウハウ」が役立っているとしている。事業が特に役立っていないとする者はいなかった。

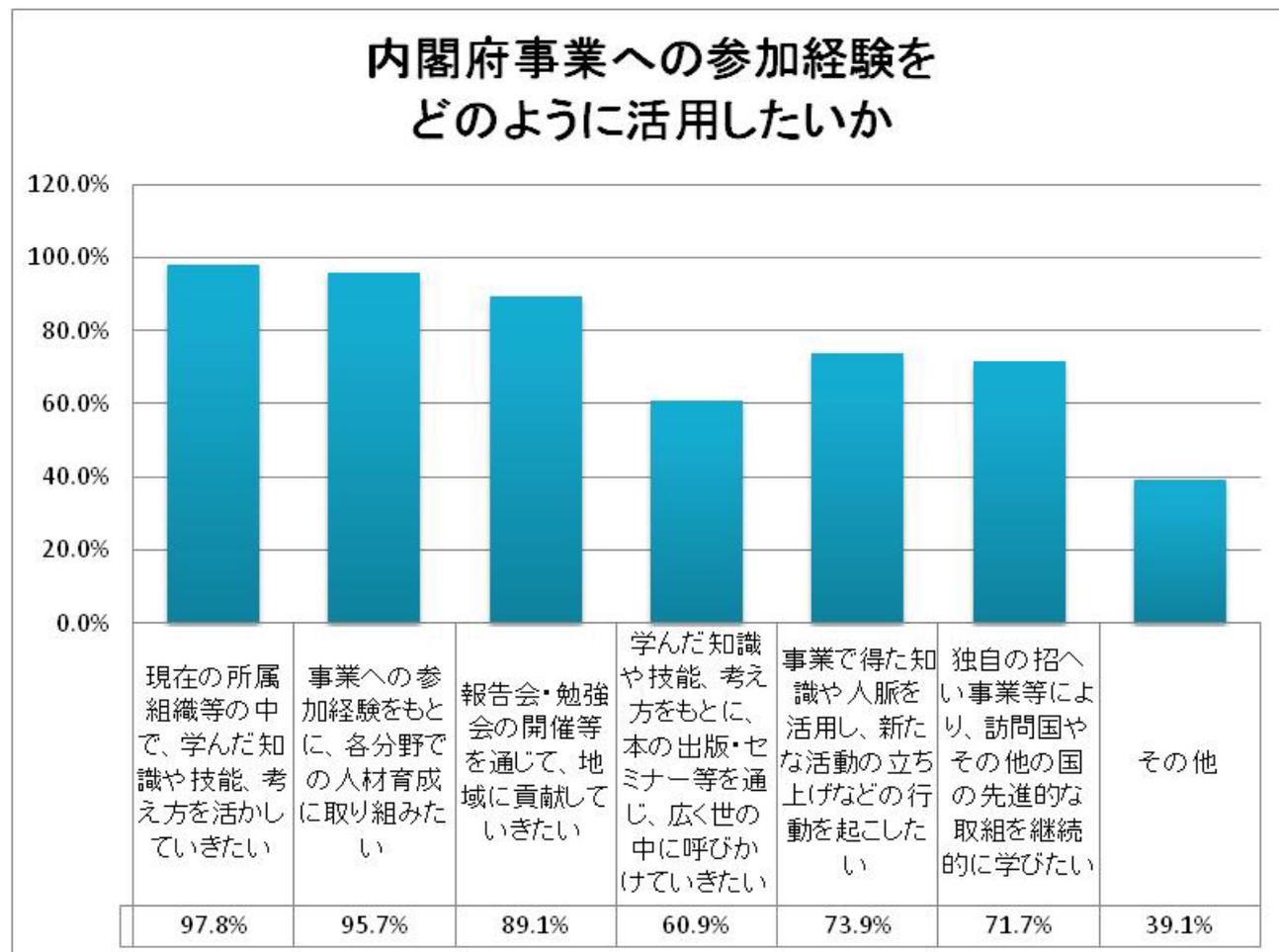


質問5：質問3でウ～オを選んだ方にお聞きます。内閣府事業への参加経験が役に立っていないのは、どのような理由ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

まったく役に立っていない人はいないが、「ウ. どちらでもない」、「オ. あまり役に立っていない」を選んだ2名によって、のべ4つの理由（「関係ない仕事」1、「風土がない」2、「環境が違う」1）が選択された。

質問6：今後、内閣府事業への参加経験をどのように活用していきたいと思っていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

「知識や技能、考え方を活かしていきたい」「人材育成に取り組みたい」が大半を占めその他の記述には、事業、NPOを立ち上げたい、仕組み作りをしたい等積極的な意見が多い。



< 具体的な活用方法 抜粋掲載 >

高齢者分野：

- ・ 現在大学で非常勤講師を務めているため、学生たちにも本事業で学んだことを伝えていきたい 高齢者(H21)
- ・ 自分でも事業を起こしてみたい 高齢者(H22)
- ・ 日本独自のケアシステムを構築し、アジアを中心とする海外へ輸出する活動など 高齢者(H22)
- ・ 自己啓発につなげたい 高齢者(H23)
- ・ 目的を達成するための組織作り 高齢者(H24)

障害者分野：

- ・ 制度改革、社会構造の変革、障害児者の差別解消、虐待防止、人間の尊厳の尊重など 障害者(H20)
- ・ NPOを立ち上げたいと思っています 障害者(H21)
- ・ 今、コミュニティーダンスのボランティアに参加しています。高齢者や子どもがいて、ダンスを通じてコミュニティーを広げる関わりをしています 障害者(H21)
- ・ 既存の国際交流活動と、既存の子育て支援活動への参加。両者の接点を作る場作りをしたい 障害者(H22)
- ・ 得たネットワークを大切に、互いに鼓舞していきたい 障害者(H22)
- ・ 事業を自分の周辺に紹介し、次に繋げたい 障害者(H24)
- ・ 内閣府の他の海外派遣事業経験者とのネットワークを強化して新たな活動につなげたい 障害者(H24)

青少年分野：

- ・ 現在も継続して活動している社会活動と内閣府の海外派遣事業との共同実施を行いたい 青少年(H21)
- ・ 情報収集、学生への学習支援のための各機関訪問など 青少年(H22)
- ・ ドイツで学んだ、青少年の意見を社会や行政の反映させる仕組みを地元でも創り上げたい 青少年(H24)